

(様式4)

公共事業再評価調書(案)

番 号	公園-2	事業担当局課	環境創造局緑地保全推進課		
事業名	新治里山公園整備事業		採択年度	平成16年度	
施工場所	緑区新治町		経過年数	19年	
目的及び 事業概要	<p>目的</p> <p>良好な自然環境を形成している里地里山環境を後世に継承していくため、樹林地等を保全育成するとともに、来園者が自然に親しみ、交流を深める場として活用することを目的に、本公園を整備します。</p> <p>施設整備する上では、計画地周辺で確認されている動植物や谷戸景観を保全するため、既存樹林地や地形を活かすとともに、里山環境を維持・再生していきます。</p> <p>また、「新治市民の森」の北側に隣接していることから、市民の森と連携した取組を展開し、市民が里山の自然環境を楽しみ、里山文化を体験学習できる場を創出します。</p> <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園全体面積：約15.3ha</li> <li>開園面積及び開園日：約1.5ha（約0.8ha平成21年4月24日、約0.7ha平成24年4月8日）（一部）</li> <li>公園種別：総合公園</li> <li>都市計画決定：平成16年12月24日</li> <li>施設内容（供用部分）：里山文化体験館（旧奥津邸）、里山資源循環作業舎（つどいの家） 便所、里山有用植物栽培園、ハーブガーデン、体験広場 管理事務所</li> <li>（未供用部分）：駐車場、休憩所、池、広場、自然観察水路、耕作体験畑</li> <li>一部の開園面積及び開園日：約1.5ha（約0.8ha平成21年4月24日、約0.7ha平成24年4月8日）</li> </ul>				
			当初 （事業採択時）	変更 （平成23年度）	変更 （平成30年度）
	事業期間		H17.3.15～ H24.3.31	H17.3.15～ H31.3.31	H17.3.15～ H38.3.31
	事業費	合計	6,923百万円	6,923百万円	5,905百万円
		国費	2,420百万円	1,620百万円	1,436百万円
		市費	4,503百万円	5,303百万円	4,469百万円
	変更内容		事業費が変更した主な理由は、以下のとおり。  (単位：百万円)		
				事業費減額の主な理由	減額分
			用地費及び 工事費	m <sup>2</sup> 当たりの地目山林、畑、宅地の評価額を現在の評価基準で算出した	用地費及び工事費国費算出

		<p>ことで、用地費及び補償費については減額としています。また、工事費については福祉のまちづくり条例などに基づく公園機能の拡充が必要になったことから、整備費を一部増額していますが、用地費及び補償費の減額が大きいいため、全体総事業費に対して減額となっています。</p>	<p>▲184 百万円</p> <p>用地費及び工事費市単費算出</p> <p>▲834 百万円</p>
		合 計	▲1,018 百万円
		<p>当該地については平成 30 年度に期間の延伸を行い、平成 37 年度末まで事業期間の変更をしています。</p> <p>理由としては公園の主要となる用地の交渉に時間を要しているため変更しています。</p>	
	上位計画等	<p>■横浜市水と緑の基本計画（平成 28 年 6 月改定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本公園は「水・緑環境の保全と創造の推進計画」において「鶴見川流域の源・上流域」に、また、「緑の 10 大拠点」において「三保・新治地区」に位置しています。</li> <li>・「鶴見川流域の源・上流域」においては、「樹林地・農地の保全と合わせて、緑地の担保量の向上や里山や谷戸の景観保全を進める」としています。</li> <li>・「三保・新治地区」においては、取組方針として、「新治里山公園にいなる里山交流センター（里山文化体験館、里山資源循環作業舎の総称）を活用し、市民が地域の伝統文化や自然に触れ、里山と親しむ環境づくりや農体験の場として、市民と農がふれあえる新治恵みの里を展開していく」としています。</li> </ul> <p>■横浜市都市計画マスタープラン・緑区プラン（平成 26 年 12 月改定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三保・新治の緑の保全・活用」において「三保・新治に広がる緑を、緑の 10 大拠点のひとつとして保全するとともに、生き物とのふれあいや自然観察、農体験などが楽しめる場として活用する」としています。</li> <li>・「新治では、緑の育成に関わる人材育成や活動拠点の活用を進めるとともに、区民と農とのふれあいを通じて、地域ぐるみで農のあるまちづくりを進める「恵みの里」を展開します」。</li> </ul>	
	関連事業	新治市民の森（約 70ha）	
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>・令和 2 年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、身近な開放空間を求めて公園を訪れる人々が増加しました。新治市民の森をはじめとする当該地周辺についても、豊かな自然環境のもとで、自然観察、里山の伝統文化や農体験、生き物とのふれあいなどの屋外レクリエーションを楽しめる場として、以前にも増して注目を集めております。</p>	

		事業全体	残事業
割引率		4%	
総便益(百万円)(B)		46,367	27,407
総費用(百万円)(C)		10,708	2,884
費用便益比(B/C)		4.33	9.50
	感度分析 【便益-10%】	3.90	8.55

事業の投資効果  
 ・  
 事業効果等  
 (費用便益分析等)

総便益：費用について現在価値に換算して計上  
 総費用：直接利用価値と間接利用価値に分けて便益を算出  
 「大規模公園費用対効果分析マニュアル(平成30年8月 一部改訂)」に基づき算出

**■定性的効果**

- ・計画地周辺で確認されている動植物や谷戸景観を保全するため、既存樹林地や地形を活かし、里山環境を維持・再生を行うことにより、里地里山環境を後世に継承していくことができます。
- ・計画地周辺は「新治市民の森」の北側に隣接しており、市民の森と連携した取組を展開していくことで、より市民が自然観察や農体験、生き物とのふれあいなどが楽しめる場とすることができます。
- ・「新治市民の森」の入口にあたることから、ウェルカムセンター機能を担う「にいほる里山交流センター」が設置され、ウォーキングに役立つ森の情報発信や自然にふれあうイベント・環境学習等が進められています。
- ・公園の整備により環境を保全する市民活動が活発となり、市民団体と連携して景観・環境の保全が進められています。
- ・この取り組みは「第33回都市公園等コンクール(一社)日本公園緑地協会会長賞」を受賞(平成29年10月27日)しています。

事業の進捗状況	事業進捗よく率%	供用等の状況については、全体計画面積約15.3haの内、「里山文化体験館や谷戸の風景を楽しむエリア」の一部となる、約1.5haを平成24年度までに段階的に供用しています(全体計画面積の内、9.8%を供用)。 未供用部分の約13.8haについては、用地取得完了後、公園施設の整備を行い、都市公園として供用していきます。
	75.3%	
	用地取得率%	
	85.9%	
	供用等の状況	
9.8%		

<p>事業の課題 及び 進捗見込み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備を計画している谷戸部分を含めた土地の取得が進んできたことから、今後、供用にむけて順次整備を進めていきます。</li> <li>・公園の未供用部分のうち、取得が進んだ土地の多くが樹林地であり、保全育成を主目的とするため、大幅な地形改変を伴う整備を計画していません。</li> <li>・残りの未取得用地については、施設計画の見直し等を並行して進めつつ、引き続き粘り強く交渉を進めていきます。</li> </ul>								
<p>その他 (コスト縮減項目等)</p>	<p>公園敷地内での造成範囲を最小限とし、可能な限り既存の樹木を活かし、整備費の縮減に努めます。</p> <p>今後も指定管理者制度を継続し、市民ボランティアによるサポートを得ることで、効率的かつ創意工夫に富んだ取組を行い、維持管理費の削減や、利用者サービスの向上を図ります。</p>								
<p>添付資料</p>	<p>別紙1 案内図、緑の分布図、航空写真 別紙2 平面図 別紙3 用地買収執行図 別紙4 施設整備執行図 別紙5 供用状況図 別紙6 上位計画抜粋等 別紙7 事業進捗状況（表及びグラフ） 別紙8 前回評価内容との比較</p>								
<p>対応方針 (案)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center; vertical-align: middle;">継 続</td> <td style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">計画通り(上記計画を実施)※1</div> </td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">一部見直し(上記計画を変更)※2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">【見直し内容】</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding-top: 20px;">中 止</td> </tr> </table>	継 続	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">計画通り(上記計画を実施)※1</div>		一部見直し(上記計画を変更)※2		【見直し内容】	中 止	
継 続	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">計画通り(上記計画を実施)※1</div>								
	一部見直し(上記計画を変更)※2								
	【見直し内容】								
中 止									

<p>対応方針 (案)とし た理由</p>	<p>計画地周辺で確認されている動植物等、良好な里山環境の保全を引き続き進める必要があります。</p> <p>市域における里山の文化と自然を体験学習する場を拡大し、多くの市民が自然環境を楽しめる場となるよう、計画している施設の整備を進めるため、事業の継続は必要です。</p>
-------------------------------	---

※1：既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

※2：今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。



# 1. 案内図

- ・所在地：緑区新治町
- ・新治里山公園は、JR 横浜線「十日市場駅」より南に徒歩で 15 分の場所に位置しています。

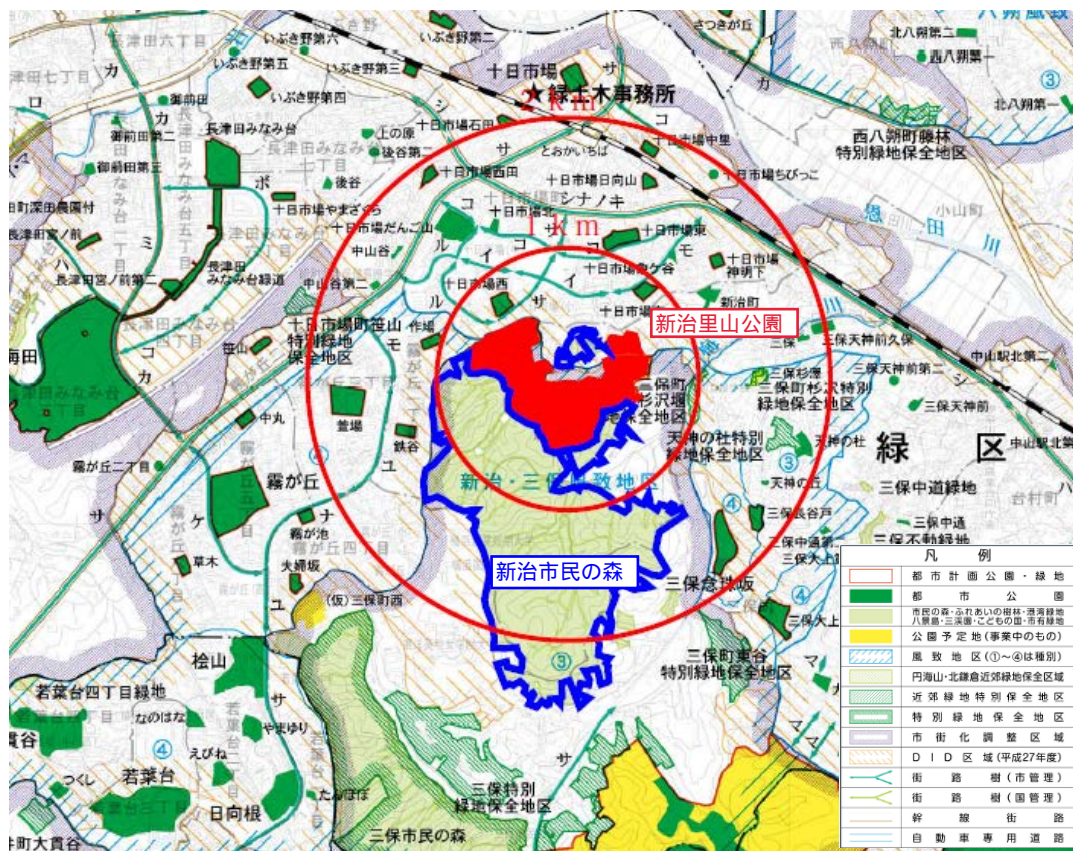


図 1 案内図広域



図 2 案内図詳細



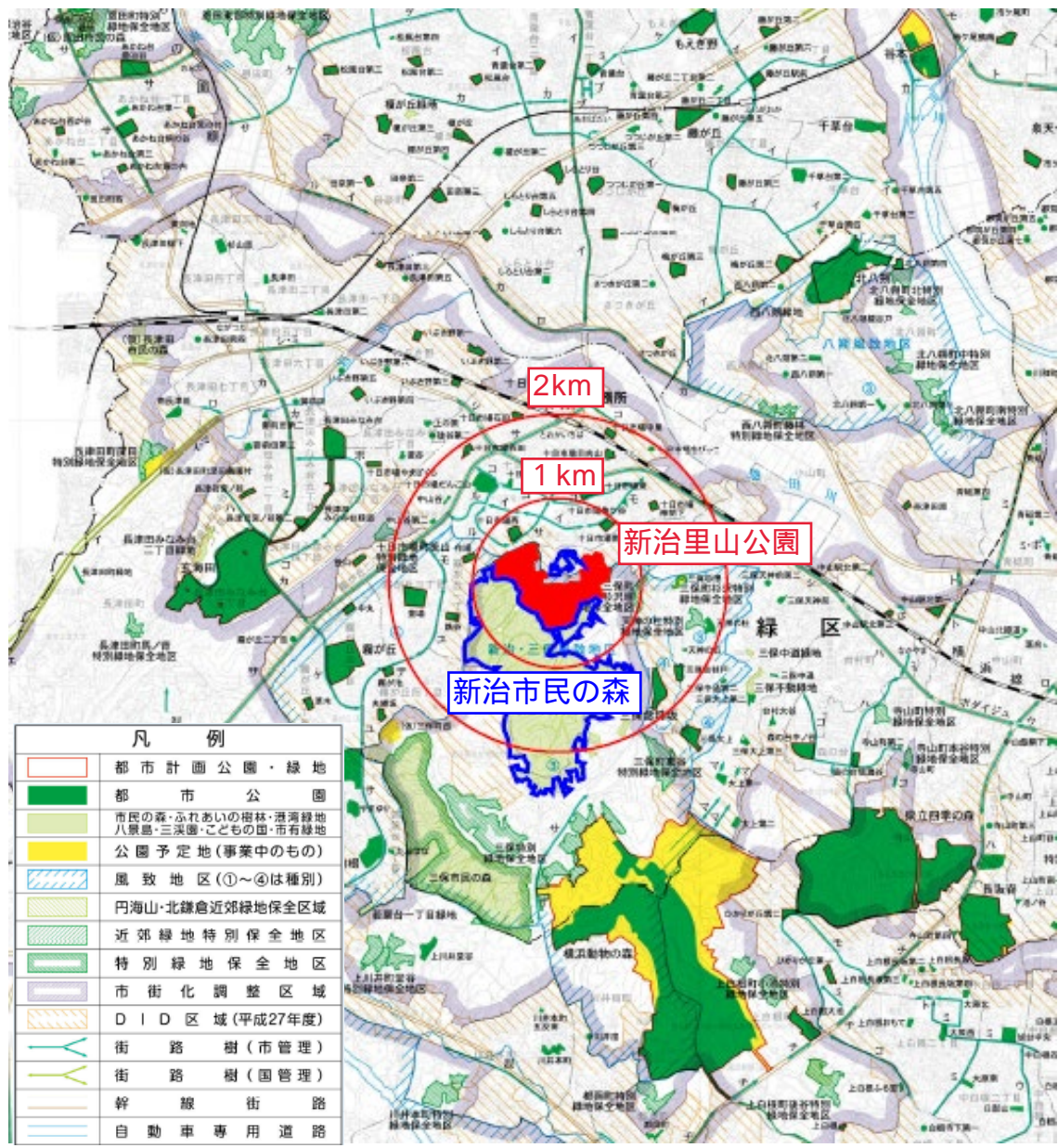


図 3 新治里山公園周辺の緑の分布



2. 航空写真

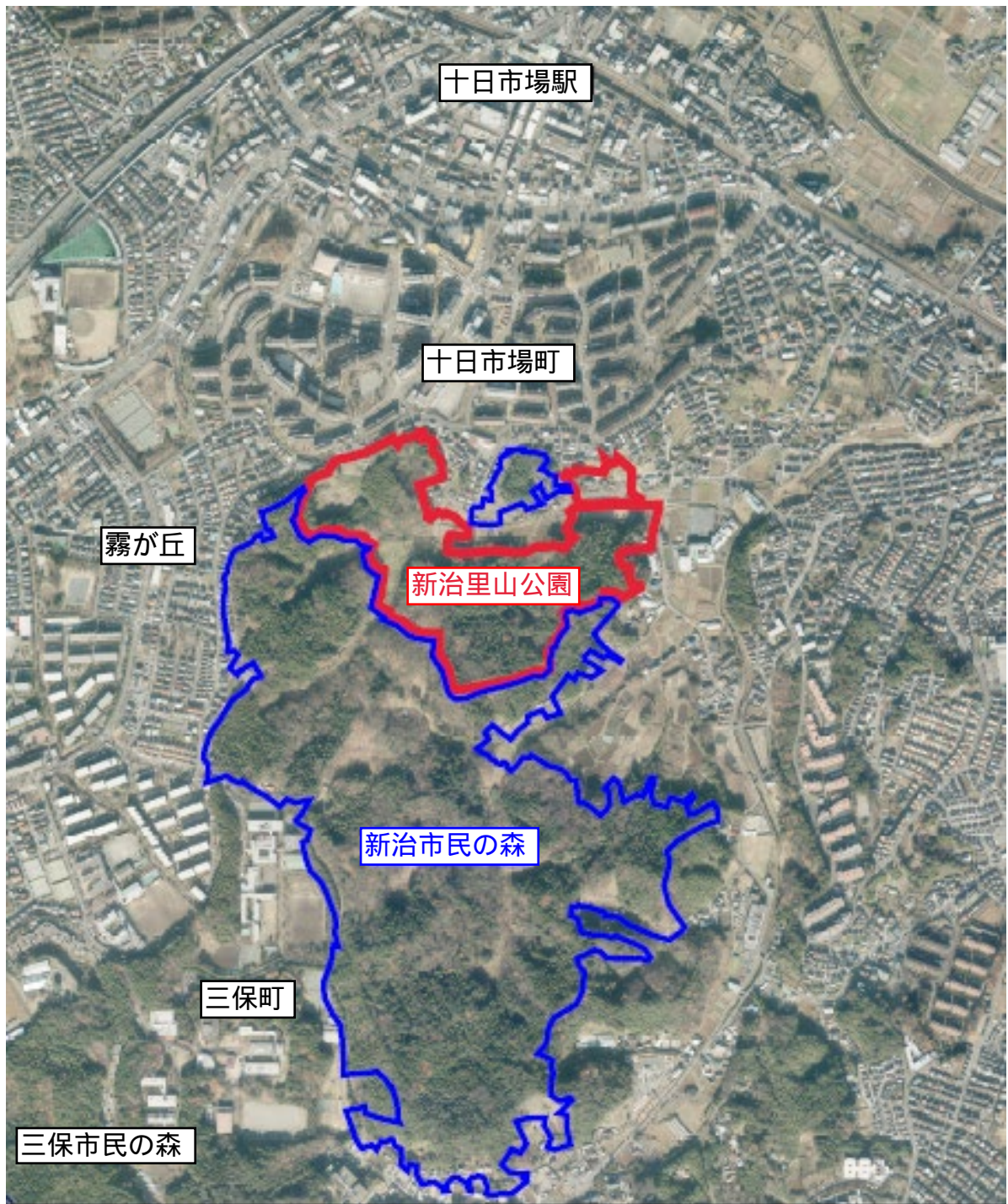
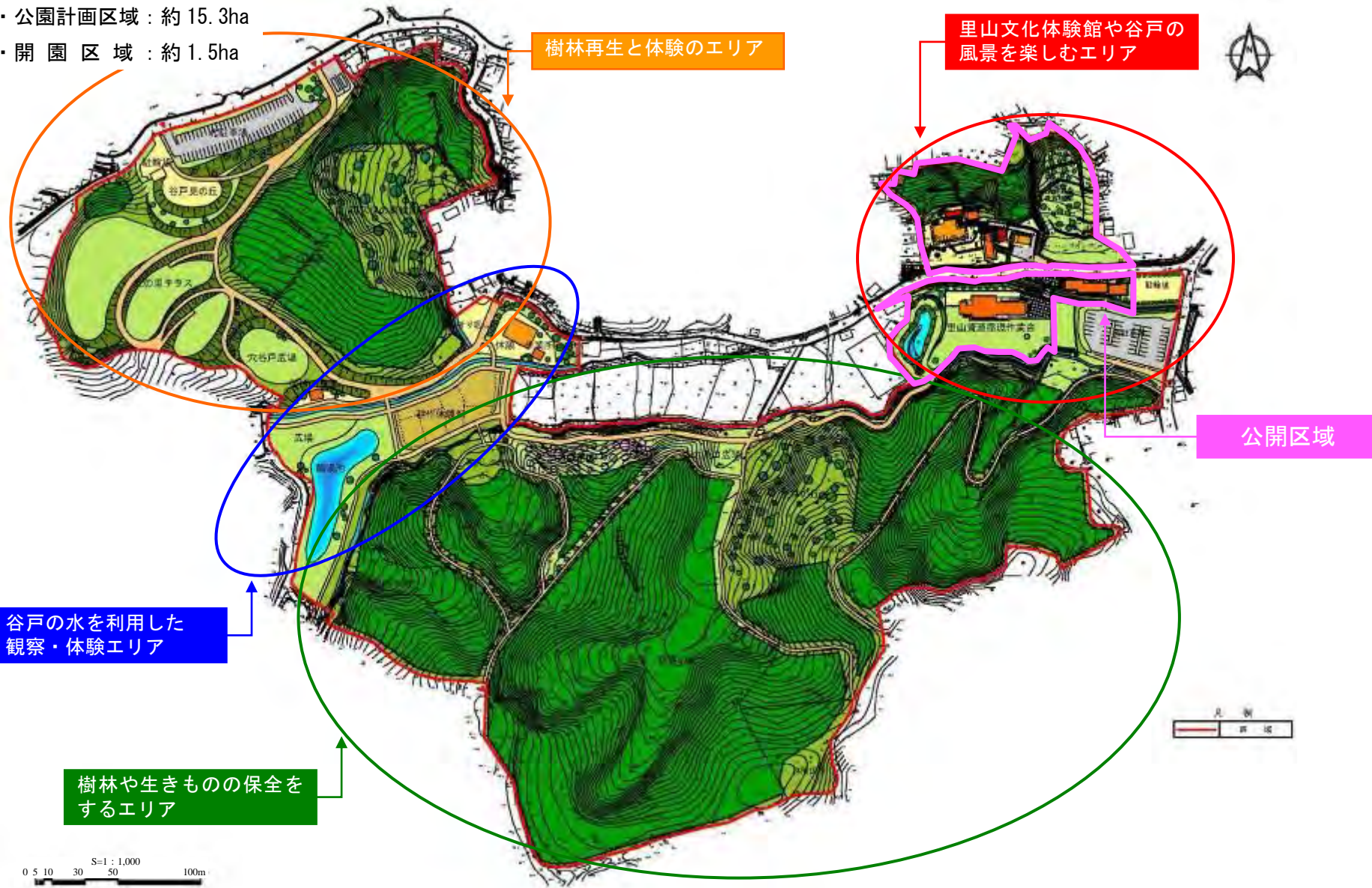


図 4 航空写真



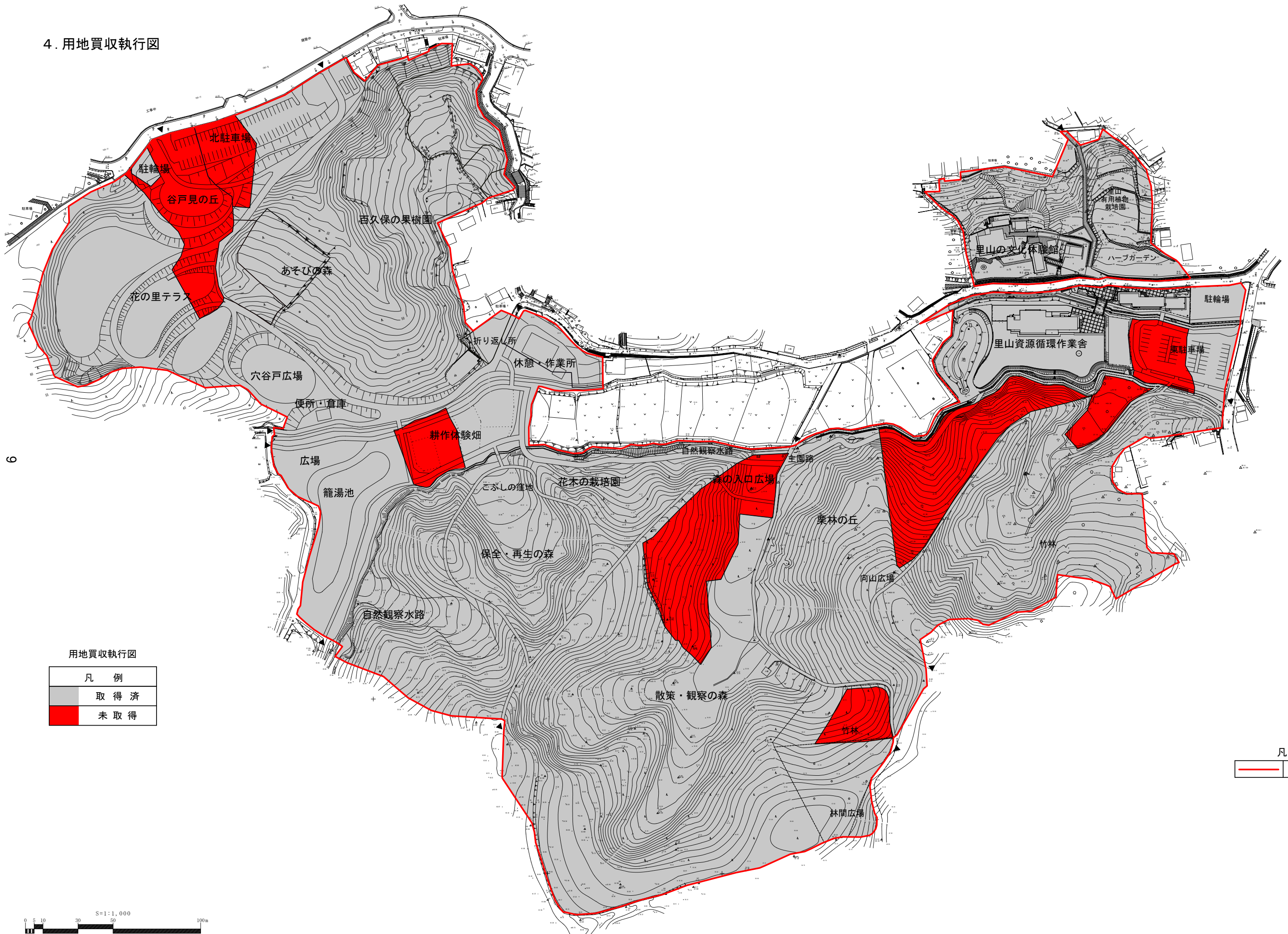
### 3. 平面図

- ・公園計画区域：約 15.3ha
- ・開園区域：約 1.5ha





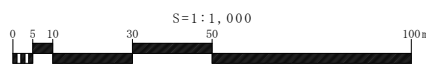
4. 用地買収執行図



用地買収執行図

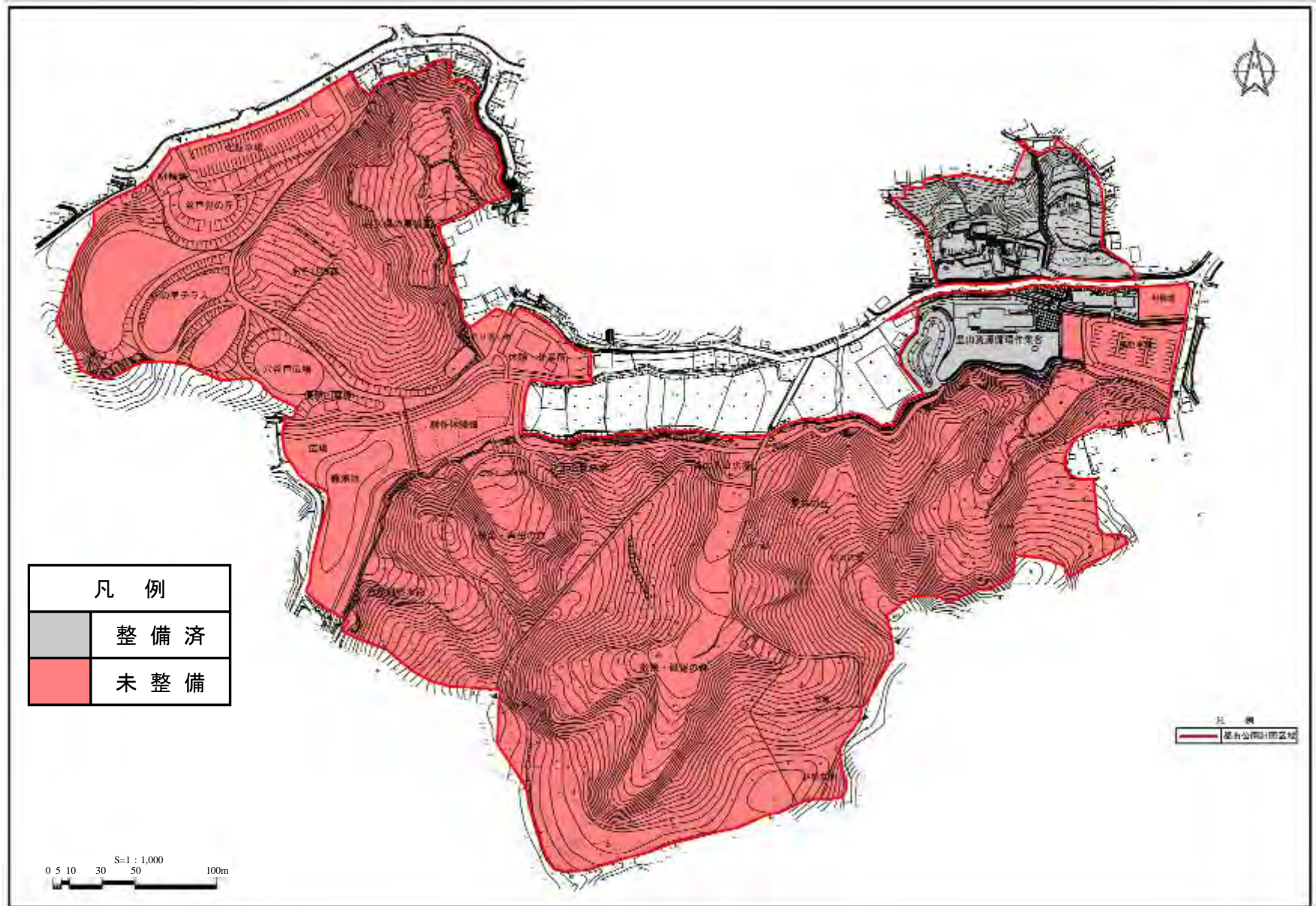
凡 例	
	取得済
	未取得

凡 例	
	区 域

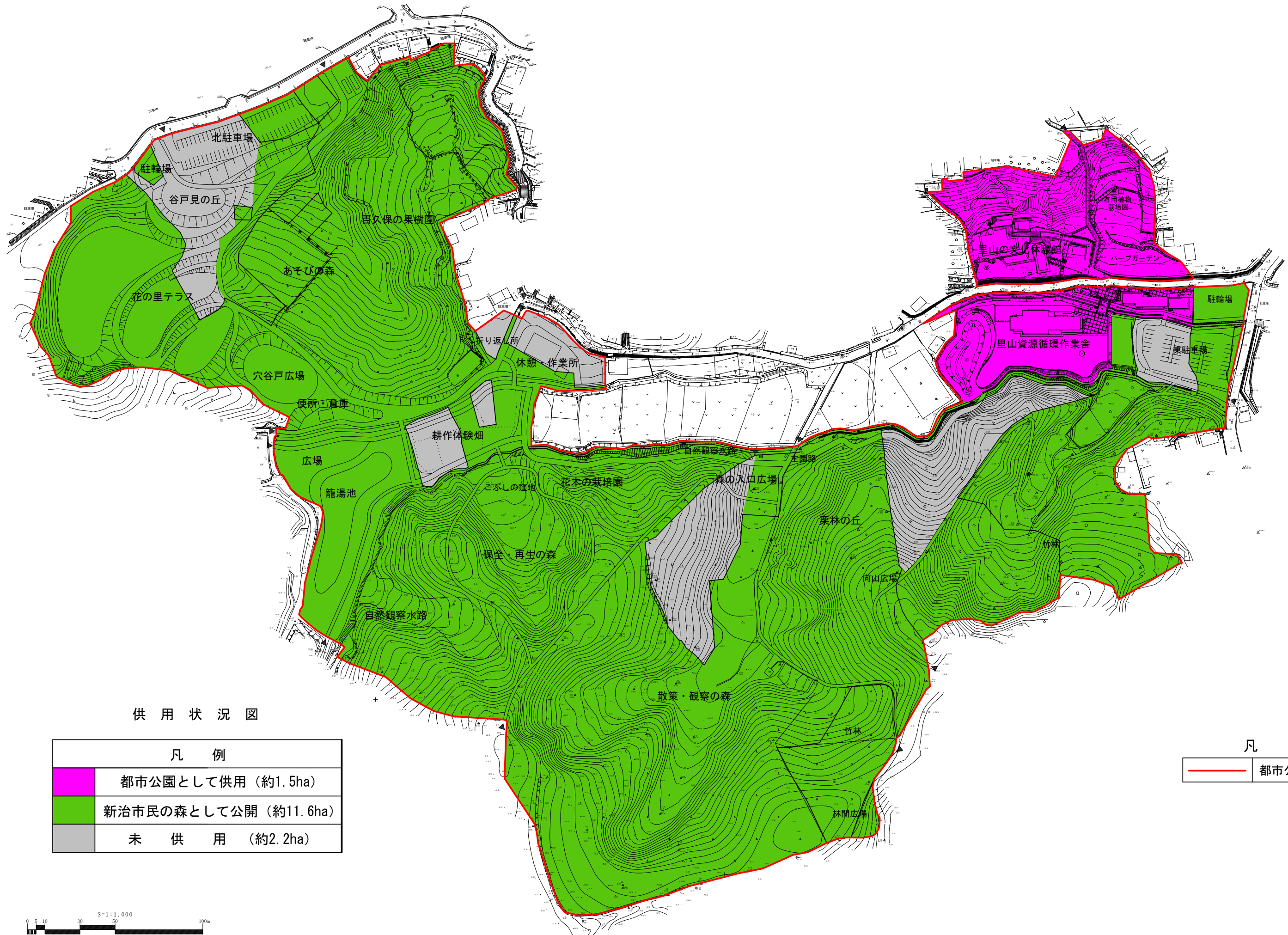







# 5. 施設整備執行図






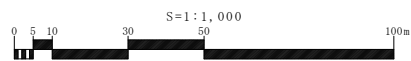


供用状況図

凡例	
	都市公園として供用 (約1.5ha)
	新治市民の森として公開 (約11.6ha)
	未供用 (約2.2ha)

凡例

	都市公園計画区域
---	----------



## 6. 事業概要

### (1) 上位計画

#### ア. 横浜市水と緑の基本計画（平成 28 年 6 月改定）

- ・本公園は横浜市水と緑の基本計画（平成 28 年 6 月改定）の「水・緑環境の保全と創造の推進計画」において「鶴見川流域の源・上流域」に、「緑の 10 大拠点」において「三保・新治地区」に位置しています。
- ・「鶴見川流域の源・上流域」においては樹林地・農地の保全と合わせて、緑地の担保量の向上や里山や谷戸の景観保全を進めるとしています。
- ・「三保・新治地区」においては、取組方針として、新治里山公園にはる里山交流センター（里山文化体験館、里山資源循環作業舎の総称）を活用し、市民が地域の伝統文化や自然に触れ、里山と親しむ環境づくりや農体験の場として市民と農がふれあえる新治恵みの里を展開していくとしています。

- ① こどもの国周辺地区
- ② 三保・新治地区
- ③ 川井・矢指・上瀬谷地区
- ④ 大池・今井・名瀬地区
- ⑤ 舞岡・野庭地区
- ⑥ 円海山周辺地区
- ⑦ 小柴・富岡地区
- ⑧ 都田・鴨居東本郷・菅田羽沢周辺地区
- ⑨ 上飯田・和泉・中田周辺地区
- ⑩ 下和泉・東俣野・深谷周辺地区



図 5 緑の 10 大拠点位置図



【主な流域資源】

流域面積：約240km<sup>2</sup>（うち横浜市域約140km<sup>2</sup>）

<p>&lt;河川&gt; 鶴見川、梅田川、大熊川、鳥山川、早淵川、砂田川、恩田川、鴨居川、矢上川（以上1級河川） 黒須田川、奈良川、岩川、布川（以上準用河川）</p> <p>&lt;水辺拠点&gt; 梅田川（一本橋メダカひろば、杉沢堰、梅田川親水広場、梅田川遊水地）、鳥山川（鳥山川遊水地）、奈良川（恩田駅前水辺広場）</p> <p>&lt;水再生センター&gt; 都筑、港北、北部第一、北部第二水再生センター（北部汚泥資源化センター）</p>
<p>&lt;緑の拠点&gt; 獅子ヶ谷市民の森、小机城址市民の森、熊野神社市民の森、綱島市民の森、新治市民の森、三保市民の森、鴨居原市民の森、川和市民の森、池辺市民の森、新横浜公園、県立四季の森公園、都筑中央公園、県立三ツ池公園、岸根公園、寺家ふるさと村、寺家農業専用地区、池辺農業専用地区、東方農業専用地区、折本農業専用地区、鴨居東本郷農業専用地区、菅田羽沢農業専用地区 など</p>

【流域の取組方針】

	流域全体	源・上流域	中流域	下流域
量	源・上、中流域においては水緑率を維持しつつ、浸透域を保全するとともに、下流域の緑化を推進する。	緑の10大拠点などの樹林地・農地を保全するとともに、雨水の浸透域を保全する。	緑の10大拠点などの樹林地・農地を保全するとともに、市街地における緑化を推進する。	街路樹などによる公共空間の緑化を推進するとともに、事業者などとの連携による緑化を推進する。
質	源・上、中流域では谷戸や里山の景観を保全するとともに、下流域では緑化による景観の向上や、発生源対策による水質向上を図る。 下水処理の高度化と合流式下水道の改善などを進める。	樹林地・農地の保全と合わせて、緑地の担保量の向上や里山や谷戸の景観保全を進める。	緑地担保量の向上により、樹林地・農地を保全するとともに、生き物の生育・生息環境に配慮した緑化を推進する。	発生源対策などによる水質の向上や、市街地の緑化などにより景観の向上を図る。
魅力	国、県や周辺都市による広域連携や、市民や環境活動団体とも連携した流域の魅力づくりを進める。	農体験の場など、農地を活用した魅力づくりや、自然体験が出来る拠点づくりを進める。	まとまりのある樹林地を活用したレクリエーション空間や農体験の場づくり、市民と連携したイベント活動を推進する。	身近な公園の整備や水辺へのアクセス・回遊性の向上などにより、水と緑の回廊形成を進める。

【水と緑の回廊像】

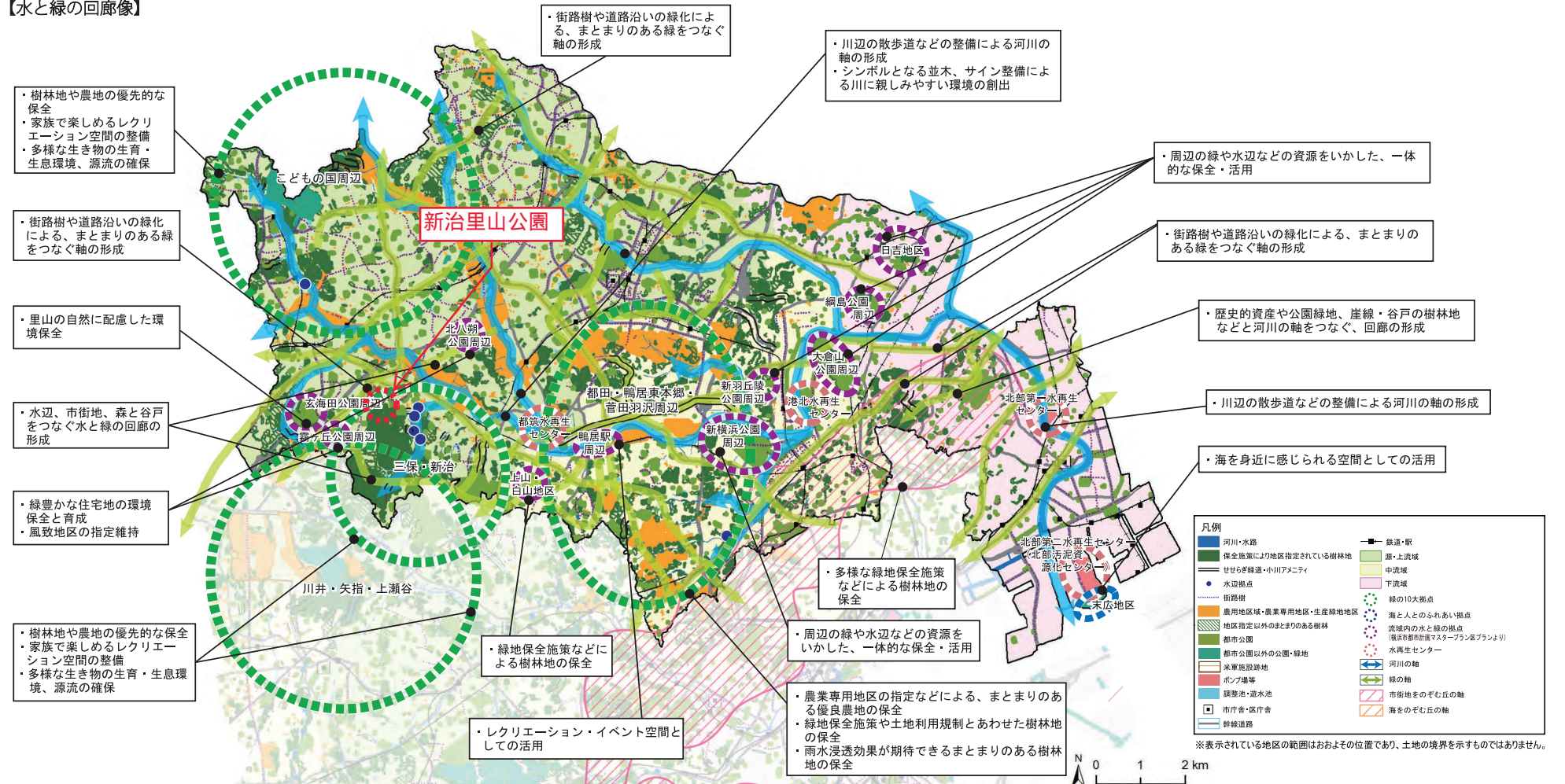


図 6 水と緑の回廊像



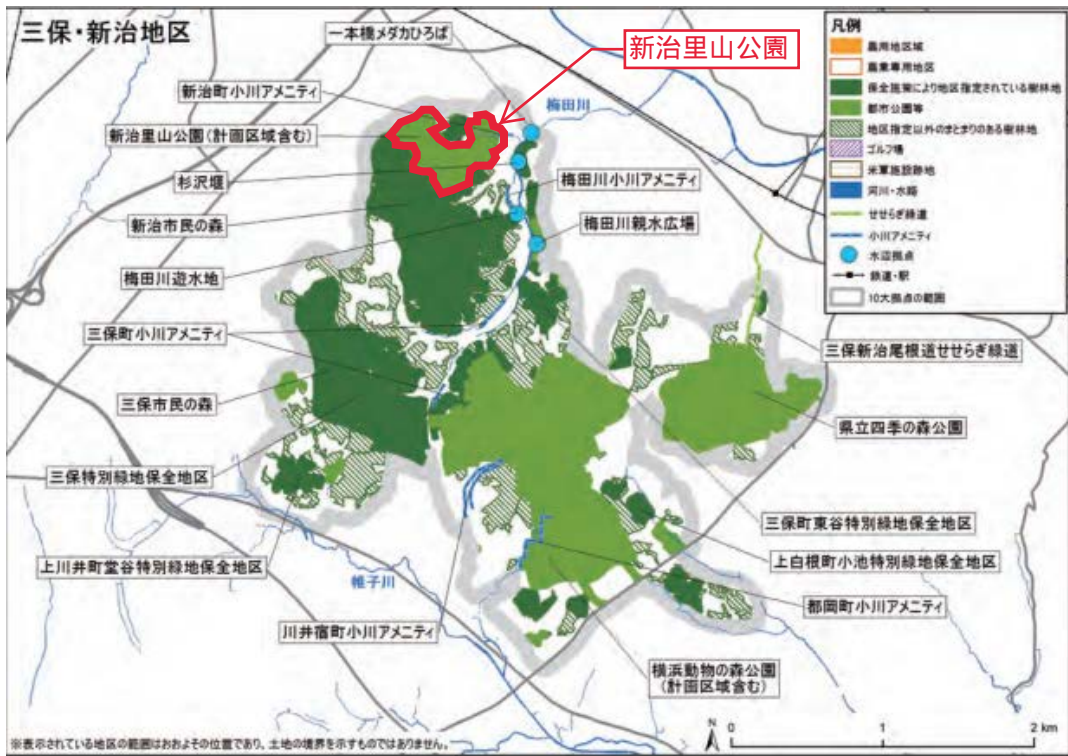


図 7 三保・新治地区位置図

イ. 横浜市都市計画マスタープラン・緑区プラン（平成 26 年 12 月改定）

- ・「三保・新治の緑の保全・活用」において三保・新治に広がる緑を、緑の 10 大拠点のひとつとして保全するとともに、生き物とのふれあいや自然観察、農体験などが楽しめる場として活用するとしています。
- ・新治では、緑の育成に関わる人材育成や活動拠点の活用を進めるとともに、区民と農とのふれあいを通じて、地域ぐるみで農のあるまちづくりを進める「恵みの里」を展開します。



図 8 緑と水のまちづくり方針図

## (2) 周辺を取り巻く状況

- ・本公園は、JR 横浜線十日市場駅の南側徒歩 15 分の場所に位置しており、公園の南側が新治市民の森に隣接し、北側には住宅地が点在、更にその北側には緑十日市場住宅団地が立地しています。

## (3) 事業の目的・必要性

- ・良好な自然環境を形成している里地里山環境を後世に継承していくため、樹林地等を保全育成するとともに、来園者が体験することで自然に親しみ、交流を深める場として活用することを目的として、本公園を整備します。
- ・施設整備する上では、計画地周辺で確認されている動植物や谷戸景観を保全するため、既存樹林地や地形を活かすとともに、里山環境を維持していきます。
- ・また、「新治市民の森」の北側に隣接していることから、市民の森と連携した取組を展開し、市民が里山の自然環境を楽しみ、里山文化を体験学習できる場を創出します。

## (4) 事業内容

- ・公園種別：総合公園
- ・計画面積：約 15.3ha
- ・開園面積：約 1.5ha
- ・施設内容：(供用部分) 里山文化体験館 (旧奥津邸)、里山資源循環作業舎 (つどいの家)、便所、里山有用植物栽培園、ハーブガーデン、体験広場 管理事務所

(未供用部分) 駐車場、休憩所、池、広場、自然観察水路、耕作体験畑

※詳細な施設内容は次項参照

表 1 施設内容

令和 4 年度現在

	整備エリア	施設名	主要施設内容
供用	里山文化体験館や谷戸の風景を楽しむエリア	・里山文化体験館 (旧奥津邸)	(機能内容) ・ビジターセンター、案内、展示、情報発信 (施設内容) ・主屋、長屋門、土蔵、トイレ、納屋、工房棟
		・里山有用植物栽培園 ・ハーブガーデン ・里山資源循環作業舎 (つどいの家)	(機能内容) ・里山体験工房(クラフト、調理など) ・里山ボランティア活動 ・利用案内 (施設内容) ・クラフトスペース、水場、用具庫、トイレ、ロッカー、更衣室、その他(インフォメーション、通路など)
		・体験広場	(機能内容) ・年中行事会場、体験、活動スペース (施設内容) ・芝生広場
		・管理事務所	(機能内容) ・管理詰所、受付利用案内、用具庫、団体利用時のレクチャールーム、利用案内 (施設内容) ・管理詰所、受付案内、用具庫、資材置場、多目的室、インフォメーションコーナー、多目的準備室、雨天時の一時避難場所
		・池(遊水池)、小川	
		・駐車場	
未供用	樹林再生と体験のエリア	・北駐車場 ・谷戸見の丘 ・花の里テラス ・あそびの森 ・百久保の果樹園 ・穴谷戸広場	
		・休憩・作業所(古民家)	(機能内容) ・機材用具庫、作業スペース (施設内容) ・機材用具庫(耕運機、脱穀機、耕作機具)、作業スペース、洗い場、ロッカー、更衣室、トイレ、雨天時の一時避難場所
	谷戸の水を利用した観察・体験エリア	・広場 ・籠湯池(調整池) ・耕作体験畑	
		樹林や生きものの保全をするエリア	・こぶしの窪地 ・保全・再生の森 ・自然観察水路 ・花木の栽培園 ・散策・観察の森 ・森の入口広場 ・栗林の丘 ・向山広場 ・林間広場

(5) 整備効果

- ・計画地周辺で確認されている動植物や谷戸景観を保全するため、既存樹林地や地形を活かし、環境再生を行うことにより、里地里山環境を後世に継承していくことができます。
- ・「新治市民の森」の北側に隣接しており、市民の森と連携した取組を展開していくことで、より市民が生き物とのふれあい、自然観察や農体験などが楽しめる場とすることができます。
- ・「新治市民の森」の入口にあたることから、ウェルカムセンターが設置され、ウォーキングに役立

つ森の情報発信や自然にふれあうイベント・環境学習等が進められています。

- ・公園の整備により環境を保全する市民活動が活発となり、市民団体と連携して景観・環境の保全が進められています。

## 7. 事業計画

### (1) 事業計画の経過

- ・都市計画決定：平成 16 年 12 月 24 日
- ・事業認可取得：平成 17 年 3 月 15 日
- ・工事着手：平成 16 年度
- ・一部開園：平成 21 年 4 月（第 1 期）、平成 24 年 4 月（第 2 期）
- ・事業認可期間：平成 17 年 3 月 15 日から平成 38 年 3 月 31 日

### (2) 事業の進捗状況

- ・事業進捗率：75.3%
- ・用地取得率：85.9%
  
- ・供用等の状況：平成 21 年 4 月「里山文化体験館（旧奥津邸）」、平成 24 年 4 月「里山資源循環作業舎（つどいの家）、体験広場、管理事務所」が開園しました。

### (3) 今後の計画

- ・施設整備を計画している谷戸部分を含めた土地の取得が進んできたことから、今後、供用にむけて順次整備を進めていきます。
- ・公園の未供用部分のうち、取得が進んだ土地の多くが樹林地であり、保全育成を主目的とするため、大幅な地形改変を伴う整備を計画していません。
- ・残りの未取得用地については、施設計画の見直し等を並行して進めつつ、引き続き粘り強く交渉を進めていきます。

## 8. 事業期間

- ・平成 17 年 3 月 15 日～平成 38 年 3 月 31 日（平成 30 年度末に、平成 37 年度まで事業認可延伸）

9. 事業進捗状況

表 2 用地費及び施設費

■年度別事業費（単位：百万円）

年度		新治里山公園			
		用地費・補償費	工事費	合計	累計
H10	1998			0.0	0.0
H11	1999			0.0	0.0
H12	2000			0.0	0.0
H13	2001			0.0	0.0
H14	2002			0.0	0.0
H15	2003			0.0	0.0
H16	2004	0.0	26.0	26.0	26.0
H17	2005	606.3	43.0	649.3	675.3
H18	2006	1,745.4	218.1	1,963.5	2,638.8
H19	2007	181.4	122.1	303.5	2,942.3
H20	2008	27.0	48.5	75.5	3,017.8
H21	2009	743.8	48.9	792.7	3,810.5
H22	2010	0.0	40.0	40.0	3,850.5
H23	2011	0.0	219.9	219.9	4,070.4
H24	2012	166.3	20.0	186.3	4,256.7
H25	2013	89.3	0.0	89.3	4,346.0
H26	2014	0.0	0.0	0.0	4,346.0
H27	2015	0.0	0.0	0.0	4,346.0
H28	2016	0.0	0.0	0.0	4,346.0
H29	2017				4,346.0
H30	2018	14.1		14.1	4,360.1
R1	2019	34.5		34.5	4,394.6
R2	2020				4,394.6
R3	2021	53.0		53.0	4,447.6
小計		3,661.1	786.5	4,447.6	
総事業費		4,261.0	1,644.0	5,905.0	

既事業分事業費	3,661.1	786.5	4,447.6
残事業分事業費	599.9	857.5	1,457.4
事業進捗率			75.3%

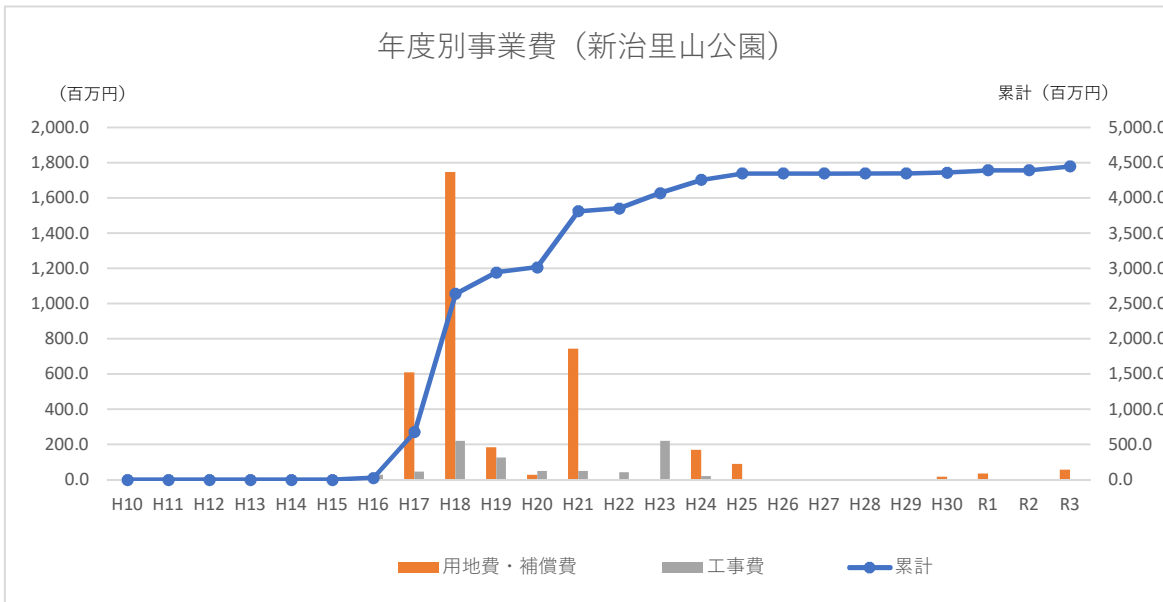
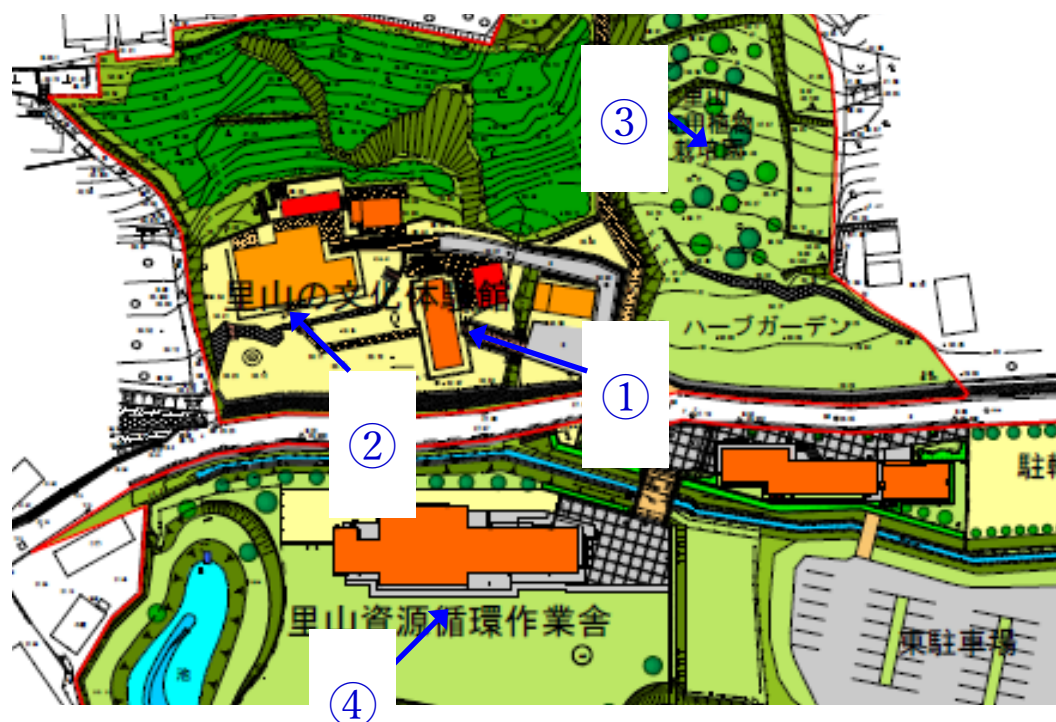


図 9 用地費及び施設費



10. 現地の状況写真



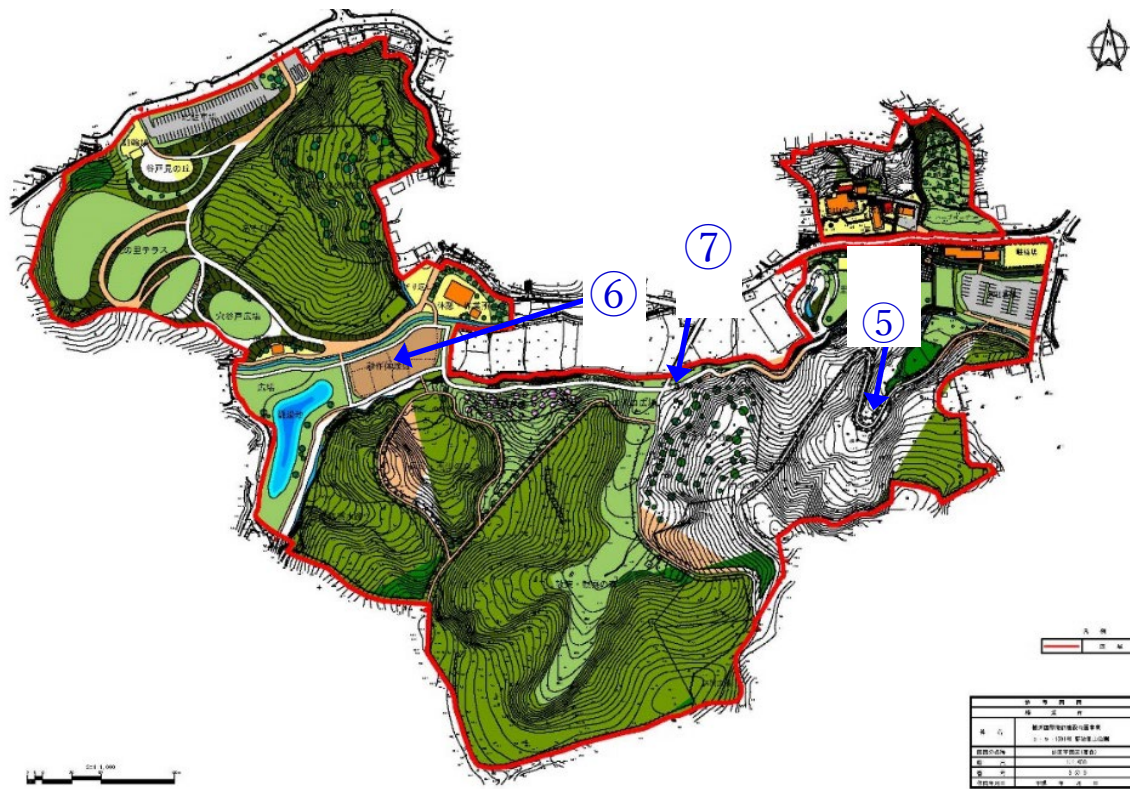
【里山文化体験館（旧奥津邸）】



【里山有用植物栽培園、ハーブガーデン】 【里山資源循環作業舎（つどいの家）体験広場】







【林内の様子】



【公園予定地（一部を市民の森として開放）】





11. 前回評価との比較

	再評価 (H29)	今回：再評価 (R4)	5年間の経過
事業を巡る 社会経済情勢等の変化	<p>平成21年度より「みどりアップ計画」に取り組んでおり、「第33回全国都市緑化フェア」（平成29年3月25日～6月4日実施）においても、花と緑への関心が高まっております。</p> <p>また近年、突発的に起こる局地的な大雨が社会的な問題になっており、樹林地などが持つ雨水貯留機能により、浸水被害を軽減する効果の重要性が高まっています。</p>	<p>令和2年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、身近な開放空間を求めて公園を訪れる人々が増加しました。屋外レクリエーションに対するニーズが高まりを見せており、新治市民の森をはじめとする当該地周辺についても、豊かな自然環境のもとで、生き物とのふれあいや自然観察、里山の伝統文化や農体験などの屋外レクリエーションを楽しめる場として、以前にも増して注目を集めております。</p>	<p>コロナ禍の影響により、この5年間で大きく社会情勢は変化しました。公園というオープンスペースが、密にならない心地よい環境を求める市民から選ばれ、注目を集めることになりました。当該公園も、市民の森も含め良好な自然環境を保全してきた成果として、イベント等が十分に行われないうち、来園者が増加する状況となりました。</p> <p>これからも、確保できた土地を活用し、市民がさらに多様な体験を提供できる場として整備を進める必要があります。</p>
事業進捗率	62.8%	75.3%	+12.5%
用地取得率	81.0%	85.9%	+4.9%
供用等の状況	9.8%	9.8%	±0
B/C	8.04	4.33	-3.71
事業の課題及び進捗見込み	<p>公園区域内で、一部未取得用地があるため、引き続き、鋭意用地交渉を進め、早期全面開園を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備を計画している谷戸部分を含めた土地の取得が進んできたことから、今後、供用にむけて順次整備を進めていきます。</li> <li>・公園の未供用部分のうち、取得が進んだ土地の多くが樹林地であり、保全育成を主目的とするため、大幅な地形改変を伴う整備を計画していません。</li> <li>・残りの未取得用地については、施設計画の見直し等を並行して進めつつ、引き続き粘り強く交渉を進めていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、土地所有者との交渉を重ね、用地取得を進めてまいりました。</li> <li>・ここ数年で、整備に必要な用地の確保の目途が立ち、整備に着手する見通しが立ってまいりました。</li> <li>・今後、供用に向けて整備を進めるとともに、残りの用地取得を目指し粘り強く交渉を進めていきます。</li> </ul>